

令和7年度「広島広域都市圏地域貢献人材育成支援事業」成果報告書

広島県立音戸高等学校

1 教育活動

(1) 区分

観光資源の共同開発・PR

(2) テーマ

音戸の魅力を広く発信し、観光資源に着目した商品開発を行う。

2 事業目的

呉市音戸町は多くの観光資源があるものの、それを活用しきれていない。地域のにぎわいが減少している当該地域で、高校生のアイデアを生かした観光PR及び商品開発を行い、にぎわいづくりに貢献する。

3 連携した市町

呉市

4 連携した企業、団体等

K3プランニング

広島国際大学

株式会社SAメディアラボ

5 実施内容

(1) 商品開発

当該地域の魅力に着目した商品の試作品等を作成し、商品化につなげる。

(2) 立体マップの作成

3Dプリンターを用いて、倉橋島の立体マップ等を作成し、市民センター等の人目に触れる場所に設置し、視覚的分かりやすく音戸町を紹介する。

(3) 観光マップの作成

音戸町内の飲食店をはじめとする観光資源を調べ、観光客向けの紙媒体のマップを作成し、配布する。

6 活動の内容

(1) 商品開発

5月から、本校において「総合的な探究の時間」で、K3プランニング田中耕三氏の御指導を受け、全学年で地域の特産品を使った商品開発を行った。商品開発に係る取組は、5年目になる。

これまで卒業生が地域に着目して開発した商品を継承しつつ、少しずつ改良を重ね、様々な商品を作り上げてきた。

昨年度までに、開発した商品には、次のようなものがある。

- ア 音戸缶バッジ（音戸の名産品や観光資源をデザインした缶バッジ）
- イ 音戸キャップ（音戸大橋を側面にデザインした帽子）
- ウ 牡蠣パンマン（音戸の名産品、牡蠣が入ったカレーパン）
- エ レモンクリームパン（地元のレモンを使用したクリームパン）
- オ ちりめんマシュマロパン（音戸の名産品、ちりめんをのせた食パン）
- カ 音戸箸（牡蠣筏の竹を再利用した箸。箸箱は3Dプリンターで作成）
- キ 革細工（地元の鹿の革を活用したキーホルダー）

音戸缶バッジは、おんど観光文化会館うずしおで「音戸ガチャ」の景品として常時販売し、その他の商品については文化祭や地域のイベントで販売している。

また、本年度は次の商品を開発した。

- ア 音戸ラムネのラベル（1学年；音戸の風景と平清盛をデザインしたラベル）
- イ 竹細工（2学年；牡蠣筏の竹を活用したアクセサリー）
- ウ 大和ラムネパン（3学年；呉市で建造された戦艦大和を名称に取り入れた、ラムネ菓子をイメージしたパン）

商品開発時に、完成品を立体的にイメージするために、3Dプリンターを活用しようとしたが、生徒に十分な技能を身に付けさせることができなかった。

今年度開発した商品は、1月15日（木）クレイトンベイホテルで開催されたオールクレ商談会で、各学年の代表がプロのバイヤーを相手に売込みを行った。いずれの商品も高評価を受け、地元のスーパーからは本校生徒と一緒に音戸ラムネと大和ラムネパンの販売をしたいとの申し出があった。

(2) 立体マップの作成

9月から、「総合的な探究の時間」で、1、2学年が広島国際大学の齋礼教授の御指導のもと、3Dプリンターを活用するため、基礎的な設計について学んだ。

Tinkercadを用いて、立体モデルを作るための具体的な手法について学んだが、

指導時間が限られていて、生徒が十分なスキルを身に付けることはできなかった。

音戸町紹介のための立体マップは、広島国際大学の全面的なバックアップのもと、学校が所在する音戸湾周辺のものを作ることができた。なお、この立体マップの作成にあたっては、本事業補助金でフィラメントを購入した。

11月16日（日）、音戸市民センターで開催した文化祭 in 音戸フェスティバル&マルシェでは、この立体マップにプロジェクションマッピングを投影し、1960年から現在までの町並みの変化を来場者に紹介した。幅広い年代層から「町の変化が分かって面白い」と好評だった。

次年度以降も、立体マップを活用した町の紹介や、観光案内を模索し、町のにぎわいづくりに貢献できる生徒の育成を目指したい。

（3）観光マップの作成

昨年度の2学年が、地元音戸町のフィールドワークを行い、観光資源やショップについて調べ、紙媒体の観光マップ「ONDO_MAP」を作成した。観光客向けの分かりやすいガイドブックになったが、印刷費用をどこから負担するかという課題が生じた。結局、本校同窓会の御厚意で費用を捻出し、11月16日（月）、昨年度版の「ONDO_MAP」を呉市役所観光振興課において呉市に贈呈した。その後、呉市役所、おんど観光文化会館うずしお、音戸市民センター、呉駅、音戸郵便局等に配架され、観光客をはじめ多くの方から高い評価をいただいている。

また、呉市への贈呈時の様子は、「中国新聞」や地元のタウン情報誌「くれえばん」にも掲載され、学校PRとともに、生徒の自己肯定感を高めることができた。

継続して「ONDO_MAP」を改良して作成するため、今年度は本事業に応募し、補助金を得ることができた。観光客を呼び寄せ、にぎわいづくりに貢献するために、2学期の早い段階から2学年を中心に地元のフィールドワークを行う予定だったが、行事が過密になり、その準備に「総合的な探究の時間」を割く必要が生じた。予定より遅くなったが、地元の飲食店のフィールドワークを行い、「ONDO_MAP」を改訂することができた。

観光マップを作製することで、生徒は地元のことをより知ることができ、地元愛を高めることができると考える。また、高い評価を多くの方からいただいた「ONDO_MAP」は、生徒の自己肯定感を高めることにもつながる。来年度以降も、継続してより内容の充実した観光マップづくりに取り組みたい。

7 成果と課題

（1）成果

本校では、高校魅力化評価システムで、生徒に対してアンケートを実施している。これは、「総合的な探究の時間」の取組ではなく、学校全体の取組を評価するものだが、意識調査の結果から本校生徒の実態を伺える。

全国平均と比較して、本校の生徒が高い割合で肯定的評価をした主な項目には次のようなものがある。

①前年度肯定的評価 ②今年度肯定的評価 ③全国平均との差

項目	①	②	③
地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる。	77.80%	85.70%	6.6pt
地域の人や課題などにじかに触れる機会がある。	74.60%	85.70%	26.7pt
自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある。	63.50%	83.90%	26.7pt
地域に、尊敬している・憧れている大人がいる。	54.00%	76.80%	22.1pt
いま住んでいる地域の行事に参加した。	46.00%	53.60%	17.5pt
地域社会などでボランティア活動に参加した。	33.30%	58.90%	33.5pt
将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある。	76.20%	85.70%	18.7pt
住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい。	68.30%	80.40%	24.3pt

本校では、地域と連携した行事、地域人材を活用した授業を行う伝統がある。本事業との相乗効果で、地域との関わりについてのほぼ全ての項目で、生徒の肯定的評価が全国平均よりも高い結果となった。本校の特色として打ち出したい。

(2) 課題

3Dプリンターを活用しての音戸町の魅力発信や商品開発は、生徒の力で十分に行うことができなかった。また、2学期に行事が集中しているため、「総合的な探究の時間」の学習内容を整理し、生徒に時間的なゆとりを持たせ、興味・関心を高めた状態で探究活動ができる環境を整える必要がある。

来年度は、生徒を商品開発2グループ、3Dプリンターを活用した広報1グループ、まちづくり1グループに分けて、自分がより興味・関心のある探究活動を選択できるように改善する予定である。

広報用写真

- 1 K3プランニングの指導による商品開発



- 2 広島国際大学の指導による3Dプリンターの活用



- 3 文化祭 in 音戸フェスティバル&マルシェ 音戸湾3Dマップの展示



- 4 オールクレ商談会



- 5 総合的な探究の時間成果発表会

